

編集後記（感想）

黒柳 幹雄（小田原市）

澄み渡った青い空、そして逞しくも人懐っこい人々。人知れず市民の安全・安心が保たれており、それをさまざまな人が支えている。危機管理大国アメリカを去る時の率直な感想である。本研修での成果を基に「危機」を「試練」として受け止め跳ね返すだけの力量を備えていきたい。最後に、業務多忙の中、研修に快く送り出していただいた所属の方々に御礼申し上げます。

小田 隆（松田町）

アメリカの危機管理システムを実際に見聞きして、ボランティアの役割や活動がとても重要であると感じました。現役を退いた高齢の方が担っているのかと思えば、若い方々も携わっている。若い人も生活の保障が与えられ、被災者が復帰できるまで面倒を見ろというアメリカの偉大さにあらためて感動を得ました。

この研修に同行していただいた事務局をはじめ、現地ガイドの方、通訳の方、添乗員の方に、そして研修を快く受け入れていただいたオクラホマ州、テキサス州の関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、研修を供にした研究員の皆様全員に感謝申し上げます。

武藤 志保（川崎市）

アメリカ視察を通じて、危機管理だけでなく多様なニーズや複雑な課題に対しては、組織間の連携を図り合理的に柔軟に対応することが重要だと改めて感じました。また、今回出会った方一人一人が、果たすべき役割を認識し、熱意と誇りを持って取り組んでいると感じました。

本研究会を通じて経験させていただいた多くのことが今後の貴重な財産になると考えています。研究員や市町村振興協会の皆様、今回の訪問で出会った皆様、所属の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

八木 匡（相模原市）

今回の視察を通じて、多くの文化が共存する視察先のオクラホマ州やテキサス

州が、組織間の連携を上手く取り、合理的かつ迅速に災害対応していることを知り、連携の重要性を再認識しました。多くの方と出会い、多くの文化に触れ、非常に貴重な経験をすることができました。関係者の方々にはいろいろご配慮いただき誠にありがとうございました。

佐藤 記央（藤沢市）

今回の視察を通じて、再認識した事柄があります。それは、アメリカにおいても『訓練』を行っているということです。文化は違えど訓練は共通です。訓練なくして災害対応能力は身につきません。今後も幅広い視野で訓練に臨んでいきたいと思いました。

この研修で出会ったかけがえのない仲間と貴重な時間を過ごせたことに本当に感謝の念でいっぱいです。言葉の壁もあり、苦勞した内容の部分もありますが、皆さんの助け合いにより、達成できたと感じています。また、事務局をはじめ、この機会を与えて下さった所属のメンバーにも感謝したいと思います。

佐藤 秀紀（三浦市）

災害をテーマとした調査研究でアメリカを訪問したこの経験は、災害対応を業務とする私として大きな財産となりました。災害を乗り切るには、組織間の連携とそのコーディネートが重要なのだと改めて感じることができました。

このような機会を提供して下さった市町村振興協会の皆様をはじめ、1年を通して協力しあった研究員の皆様、業務多忙のなか快く研究会に送り出していただいた所属の皆様、今回の訪問で出会った全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

木村 修平（秦野市）

海外視察で一番印象に残っている言葉は、訪問先でよく耳にした「災害をどう予防するかではなく、起きた時にどう動くか」という言葉です。

災害はどんなに予防しても必ず起きる。なら、その災害による被害が最小限に抑えられるよう我々消防・行政職員が常に何を考え、どのように連携しなければならないか、危機管理の重要性を改めて考えさせられたものでした。

最高のメンバーと最高のテーマで最高の研究ができたこと、また、応援してくださった所属の方々に心から感謝しています。

山崎 統男（大和市）

今回の研究で、危機管理だけではなく、多岐にわたる他の行政業務においても、すべきことをキチンと見極め、過不足なく取捨選択をすることが、結果的に住民に対する質の高い行政サービスの提供につながるのだという、至極当然のことを遠いアメリカで再認識できました。

これも偏に、市町村振興協会の皆様、メンバーの皆様、ならびに今回の研究に参加する機会を与えて頂いた、業務多忙の所属の上司・同僚の皆様と人事主管課の多大なるご協力の賜物です。本当にありがとうございました。

ここで得た財産を、何らかの形で住民の皆様に還元することを約束します。

安宅 道善（海老名市）

海老名市で危機管理の仕事に携わりながらアメリカの地で危機管理の取組を研究できたこの経験は、本当に貴重なものであり、今後の私自身の危機管理意識を更に高めるだけでなく、消防・行政あらゆる部分で視野を広げてくれるものと感じています。ここで出会った新たな仲間、市町村振興協会の皆様、応援してくれた所属の皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

青木 佳朗（中井町）

今回アメリカで行われている危機管理の取り組みについて、行政の役割のほか、関連する訓練施設や気象研究施設、ボランティアのかかわりなど、幅広い調査研究ができたことは、貴重な財産であり、少しでも今後に生かせればと思っています。また、事務局や研究会メンバーとも仲良くさせていただき、充実した研究会になったことに感謝しています。

課題テーマ別調査研究を終えて

平成25年度の課題テーマ別調査研究のインディペンデントテーマコース第1コースの課題テーマは、「災害に対する危機管理の取組み」であった。この課題テーマのもと、県内の各市町長の推薦を受け10名の職員が集まり、国内における調査研究を重ね、海外での現地調査を行った。

5月からスタートした研究会は、各研究員の意見交換から始まり、今後の研究の方向性を定め、各自が文献やインターネットから情報収集をして順調に進められていった。また、この集合研究会のほか、いつでも意見交換ができるように協会が設置した電子会議室を有効活用し、この場においても積極的な意見交換、情報提供などが行われた。6月には研究員の手配により、横須賀にある米海軍日本管区司令部消防隊への訪問や、総務省消防庁消防大学校客員教授の日野宗門氏を講師にお招きし、危機管理についてのディスカッションを行い、訪問国をアメリカとし、訪問先、調査項目などを具体的に決定していった。

こうして決まった訪問先は、委託旅行社に交渉をしてもらうことになっている。例年、この交渉には時間が掛かり、希望通りにならないこともあるため、事務局としては委託旅行社からの回答をはらはらしながら待つことになるのだが、今回数カ所の訪問先については、リーダーのご尽力により財団法人日本消防協会の協力を得ることができ、早い段階で希望の訪問先から良い返事をもらうことができたことは大変有り難かった。

8日間の現地調査については、オクラホマ州でオクラホマシティ危機管理部門、ムーア市の消防署、市役所、赤十字社およびナショナルウェザーセンターを訪問した。その後テキサス州へ移動し、消防士用のトレーニング施設であるT E E Xおよびパサデナ市義勇消防団を訪問した。

出発前にアメリカで新年度予算が成立せず、政府機関閉鎖になってしまい、現地調査に影響が及ばないかと心配したが、ナショナルウェザーセンターで一部政府機関の施設が見学できなかったということのほかには大きな影響はなかった。

どの訪問先の対応者も親切で、研究員たちの熱心な質問に丁寧に答えてくれた。

研究員も限られた時間の中で少しでも多くの話が聞けるよう、質問の仕方を工夫し、移動のバスの中では通訳者と打ち合わせをするなどして、回を重ねるごとにその内容は充実したものとなっていった。

また、避難シェルターが見たいという私たちの要望に答え、予定にはなかったにもかかわらず、添乗員さんなどが、近くのシェルターを作っている事業者を探し出し、交渉をしてくれた。そこでは、シェルターの製作現場と地下シェルターの実物を見学させてもらうことができた。

私たちの夕食には、公式訪問時に対応してくれた消防署の職員や、現地の日本人ガイドさんなども参加してくれたが、この時は公式訪問の時とは違ったリラックスした雰囲気の中、楽しくコミュニケーションを取ることができた。

移動をできるだけ抑え、多くの訪問先を訪れることができたが、スケジュールはハードであった。そのような中、リーダーを中心に全員が協力し合い、楽しく充実した現地調査を行うことができ、あっという間の8日間であった。帰国後、引き続き研究会を行い、その成果をこの報告書にまとめた。

今後、研究員の皆様がこの研究の成果とアメリカでの貴重な経験をもとに活躍されることを願うとともに、この報告書が、市町村行政に大きく活かされることを期待したい。最後に、この調査事業にかかわってくださったすべての方に、そして研究員の皆様にあらためて心から感謝を申し上げたい。

事務局 田中

参 考 资 料

参 考 文 献

1 書籍・報告書・論文等

- 務台俊介編、レオ・ボスナー/小池貞利/熊丸由布治著 (2013)
「3・11 以後の日本の危機管理を問う」株式会社晃洋書房
- 財団法人日本消防協会編 (2012)「消防団の戦い—3. 11 東日本大震災—」
株式会社近代消防社
- 小川和久著 (1995)「LA 危機管理マニュアル」株式会社集英社
- 瀧澤忠徳著 (2012)「消防・防災と危機管理～全国自治体職員のための入門書～」株式会社近代消防社

2 ホームページ (WEB ページ)

- 総務省消防庁 <http://www.fdma.go.jp/>
- アメリカ合衆国国勢調査局 <http://quickfacts.census.gov/>
- オクラホマシティ <https://www.okc.gov/>
- アメリカ海洋大気庁国立気候データセンター <http://www.ncdc.noaa.gov/>
- 米国連邦緊急事態管理庁 <http://www.fema.gov/>
- 米国連邦緊急事態管理庁防災研修所 <http://www.training.fema.gov/>
- 秦野市役所 <http://www.city.hadano.kanagawa.jp/>
- テキサス州パサデナ市 <http://www.ci.pasadena.tx.us/>
- 財団法人日本消防協会 <http://www.nissho.or.jp/>
- 関西学院大学 <http://www.kwansei.ac.jp/>
- 公益財団法人神奈川県消防協会 <http://www.business1.jp/ksk/pc/>
- 京都大学防災研究所 <http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp/>
- 消防科学総合センター <http://www.isad.or.jp/cgi-bin/hp/index.cgi>
- 神奈川県消防学校 <http://www.pref.kanagawa.jp/div/0340/>
- 日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp/>
- 全社協 被災地支援 災害ボランティア情報 <http://www.saigaivc.com/>
- National Weather Center <http://nwc.ou.edu/>

3 新聞記事

- 読売新聞 2013 年 5 月 29 日 (朝刊)「帰宅困難対策進む」
- 読売新聞 2013 年 5 月 29 日 (朝刊)「南海トラフ地震 避難所利用に優先順位」
- 読売新聞 2013 年 10 月 7 日 (朝刊)「災害情報市HPへ集約」
- 読売新聞 2013 年 10 月 12 日 (朝刊)「川内原発防災訓練」
- 読売新聞 2013 年 10 月 13 日 (朝刊)「生徒だけで避難訓練」

- 読売新聞 2013 年 11 月 27 日（朝刊）「大島救援から教訓学ぶ」
- 神奈川新聞 2013 年 9 月 3 日（朝刊）「埼玉・千葉竜巻か」
- 神奈川新聞 2013 年 9 月 4 日（朝刊）「予測困難安全策は」

平成 25 年度 課題テーマ別調査研究（海外）実施要領

（目的）

第 1 条 本格的な地方分権時代を迎え、地方自治体はますます自立と独自性が求められ、行政の様々な分野での変革を迫られている。

そこで、県内各自治体から、課題テーマに高い関心と強い意欲を持っている職員を研究員として募り、これから求められる政策課題について海外での調査を含む調査研究により、地方分権時代に対応した具体的施策の提言を求める。

（対象職員）

第 2 条 対象職員（以下「研究メンバー」という。）は神奈川県内市町村の職員で、課題テーマに関連する職務に現在従事しているか、課題テーマの調査研究に取り組む意欲のある職員とし、（別紙 1）の課題テーマ別に市町村長から推薦を受けた職員とする。

（募集人数）

第 3 条 コース数は 2 コースとし、募集する研究メンバーは、1 コース 10 名程度とし、1 コース 1 市町村から 1 名とする。なお、各コースとも応募者数が 8 名以下の場合は、事業を中止することもある。

（調査研究方法等）

第 4 条 調査研究方法等は、次のとおりとする。

- (1) 調査研究期間は平成 25 年度中とし、概ね 18 日間程度の研究会を開催し、うち 8 日間は海外での調査研究に充てるものとする。
- (2) 具体的な調査研究方法及び日程は、（別紙 2）の「調査研究の方法及び研究会の開催計画（予定）」のとおりとする。
- (3) 国内での調査研究には海外調査の準備として次の事項を含むものとする。
 - ① 具体的な調査研究方法の決定
 - ② 調査訪問先及び調査項目の決定
 - ③ 課題テーマに係る事前研究及び資料の収集
 - ④ 調査研究結果（研究報告書）作成の方向及び役割分担
- (4) 研究会において、調査研究に当たり必要があるときは振興協会と協議し、当該課題の専門家を講師として依頼することができるものとする。

(調査研究結果のとりまとめと研究報告書の作成)

第5条 研究メンバーは、コースごとに調査研究結果を取りまとめ、研究報告書を作成する。
研究報告書は振興協会が全市町村長に送付する。

(経費の負担)

第6条 調査研究に係る直接経費は協会の規程等に基づき全額（支度料・日当は除く。）協会が負担する。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から適用する。

(別紙1)

平成25年度課題テーマ

テーマ1：災害に対する危機管理の取組み

調査訪問国 アメリカ又はヨーロッパ2カ国以内

テーマ2：地域ブランド化の取組み

調査訪問国 アメリカ又はヨーロッパ2カ国以内

(別紙2)

調査研究の方法及び研究会の開催計画(予定)

1 調査研究の方法

- (1) 集合研究会として、主として振興協会会議室にてコース別に振興協会が設定する日程により行う。

なお、必要に応じ、上記以外に説明会・打合せ等を開催することがある。

- (2) その他の調査研究

- ① 通信による研究会（電子会議室、FAX等）を常時メンバーで行う。
- ② 自己研究
- ③ 情報・資料収集（インターネット、図書、新聞、雑誌など）
- ④ 研究のまとめ（各自）

- (3) 海外調査研究

上記(1)(2)の調査研究に加え、海外での先進的事例等の調査研究を行う。

なお、調査訪問国、調査訪問先については、6月21日（金）までに取りまとめる。

2 研究会の開催計画

- (1) 合同説明会 5月10日（金）

- (2) 事前研究会 ①インディペンデントテーマ1コース

5月21日（火）、5月29日（水）、6月13日（木）、
6月19日（水）

7月11日（木）（海外調査委託業者との協議会）

9月4日（水）

- ②インディペンデントテーマ2コース

5月23日（木）、5月30日（木）、6月12日（水）、
6月18日（火）

7月10日（水）（海外調査委託業者との協議会）

9月5日（木）

*各コースとも海外調査出発日までは必要に応じて追加開催する。

- (3) 事後研究会 報告書の作成状況により必要に応じて開催する。

なお、報告書は平成26年1月15日（水）までに取りまとめる。

- (4) 海外調査 10月中旬（8日間）

○ 国内研究日程

説明会及び第1回研究会

平成25年5月10日（金）

- ・オリエンテーション
- ・海外調査日程の検討
- ・海外調査訪問国の決定

研究会

第2回

平成25年5月21日（火）

- ・海外調査訪問先の検討
- ・調査項目の検討

第3回

平成25年5月29日（水）

- ・海外調査訪問先の検討
- ・海外調査訪問先における調査項目の検討

第4回

平成25年6月13日（木）

- ・事前研修（場所：米海軍横須賀基地）（午前）
「アメリカの災害対応等の現状について」
米海軍日本管区司令部消防隊
ギフトン ローレンス氏、ピート ソレンセン氏
- ・事前研修
「自治体における危機管理の取り組みとその課題」（午後）
総務省消防庁消防大学校客員教授 日野 宗門氏

第5回

平成25年6月19日（水）

- ・海外調査訪問先、調査項目等の決定

第6回

平成25年7月11日（木）

- ・海外調査訪問先等の確認
- ・海外調査事項の検討
- ・海外調査訪問先における役割分担の決定

第7回

平成25年9月4日（水）

- ・海外調査事項の決定
- ・研究報告書の作成について検討

第8回

平成25年9月30日（月）

- ・海外調査日程及び調査事項等の最終確認

海外調査

平成25年10月6日（日）から10月13日（日）

- ・別紙「海外調査日程」

第9回

平成25年10月30日（水）

- ・研究報告書の作成について検討

第10回

平成25年11月13日（水）

- ・研究報告書内容の検討

第11回

平成25年12月18日（水）

- ・研究報告書の取りまとめ

第12回

平成26年2月13日（木）

- ・研究報告書の最終取りまとめ

○ 海外調査日程

第1日目：10月6日（日）

成田発 15:55（UA838便）
空路、サンフランシスコ乗継にてオクラホマシティへ移動
オクラホマシティ着 16:16 オクラホマシティ泊

第2日目：10月7日（月）

（午前）「オクラホマシティ市役所」訪問調査
（午後）「オクラホマ消防博物館」訪問調査、専用車にてムーア市へ移動
「ムーア市消防本部」訪問調査、専用車にてオクラホマシティへ移動
オクラホマシティ泊

第3日目：10月8日（火）

（午前）専用車にてムーア市へ移動、「ムーア市役所」訪問調査
（午後）「ムーア市ブライヤーウッド小学校被災現場」外観調査
「アメリカ赤十字オクラホマ支部」訪問調査
専用車にてオクラホマシティへ移動 オクラホマシティ泊

第4日目：10月9日（水）

（午前）専用車にてノーマン市へ移動
「ノーマン市ナショナルウエザーセンター」訪問調査
（午後）専用車にてオクラホマシティへ移動
空路にてテキサス州ヒューストンへ移動 ヒューストン泊

第5日目：10月10日（木）

専用車にてカレッジステーションへ移動
（終日）「カレッジステーション市TEEX」訪問調査
専用車にてヒューストンへ移動 ヒューストン泊

第6日目：10月11日（金）

（午前）専用車にてパサデナへ移動、「パサデナ市義勇消防団」訪問調査
（午後）ヒューストン市内公共施設調査 ヒューストン泊

第7日目：10月12日（土）

（午前）専用車にて空港へ移動
ヒューストン発 10:45（UA007便） 機内泊

第8日目：10月13日（日）

成田着 14:30

「災害に対する危機管理の取組み」研究メンバー表
(インディペンデントテーマコース①)

市町村名	氏 名	所 属 ・ 職 名
小田原市	リーダー 黒 柳 幹 雄	防災部 防災対策課 係長
松 田 町	サブリーダー 小 田 隆	教育委員会 教育課 課長
川 崎 市	武 藤 志 保	総務局 危機管理室 事務職員
相模原市	八 木 匡	土木部 津久井土木事務所 技師
藤 沢 市	佐 藤 記 央	警防室 警防課 主査
三 浦 市	佐 藤 秀 紀	消防本部 消防総務課 主任
秦 野 市	木 村 修 平	消防本部 警防対策課 主任主事
大 和 市	山 崎 統 男	総務部 収納課 主査
海老名市	安 宅 道 善	市長室 危機管理課 主査
中 井 町	青 木 佳 朗	上下水道課 技幹
(事 務 局)	田 中 茂 子	(公財) 神奈川県市町村振興協会 主査